



芝山小だより



2月号  
清瀬市立芝山小学校  
校長 寺井 俊敬  
<http://www.kiyose.ed.jp/>

## 芝山小学校の人権教育

特別支援コーディネーター

芝山小学校の線路の南側に東村山清瀬線という都道が通っています。10年ほど前、勤めていた学校で校外学習の実地踏査を行っていた際、この都道を東村山方面に向かい、少し細い路地を進んでいったところ、ある施設の中に迷い込んでしまいました。その施設が、国立療養所多摩全生園だったと知ったときの驚きは昨日のことに鮮明に覚えています。

多摩全生園については、ご存じの方もいることと思います。明治42年清瀬市の西端(東村山市の東端)に建てられ、ハンセン病患者の皆様が長年にわたって隔離されていました。ハンセン病は、現在では有効な治療薬によって入院することなく治療できる「普通の病気」です。しかし、疾患が正しく理解されず、有効な治療法がなかった時代には、感染を恐れるあまり患者は一般社会から隔離されることになりました。隔離政策が廃止されたのは1996年の「らい予防法の廃止に関する法律」によってで、実に90年もの長い年月を要しました。この間、患者の皆様、そしてご家族は多大な苦痛と苦難を強いられてきたのは言うまでもありません。隔離政策は廃止となりましたが、社会における偏見・差別が残っていることもあって、退所することができない方が多数でした。現在は、ハンセン病回復者の方々100名ほどが過ごしていらっしゃいます。

本校では、各教科・各領域等、教育活動全体を通じて、人権教育に取り組んでいます。東京都には、様々な人権課題がありますが、ハンセン病について考えることも人権課題の一つです。子供たちには、ハンセン病に関わる人権侵害等の歴史や現状等について理解を深めることを通して、偏見や差別なく互いの人権を尊重し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けてほしいと願っています。

本校では、6年生の総合的な学習の時間で、このハンセン病について、国立ハンセン病資料館の見学に行ったり、実際に全生園に住んでいらっしゃる方々を講師としてお迎えして話を聞いたりして学んでいて、私も6年生と一緒にハンセン病について学んでいます。

ハンセン病回復者の方々の話を聞くと、この場所で展開されたことの残酷さや悲惨さは言語に絶するものがあります。一方、どのような状況にあっても人間の尊厳を保ち、こんなにも高貴な生き方ができるのかと驚かすにはいらなかった例が存在したことも確かです。

実際に授業をしてみて、今年の6年生の学習の振り返りには以下のようなものがありました。

「ハンセン病の歴史を知ることができて、私たちの住んでいる身近なところでもこのようなことがあったことがわかりました。」

「差別があったということについて学び、その中で生き抜いた人たちの想いを未来につないでいきたいと思いました。」

このハンセン病についての学習を含め、これまでの総合的な学習の時間のまとめとして、3月には発表会を行い、6年生の保護者の皆様等に聞いていただいています。今年の6年生がどのような発表をしてくれるか楽しみです。

### < 2月「ふれあい月間」 >

今年度3回目のふれあい月間を実施します。子供たちが、「学校生活で困っていること」や「悩んでいること」などについて、教員による日々の観察や指導に加えて、アンケートを通して聞き取ります。困り事や悩み事を把握することで、一人一人への支援、指導を行うとともに、いじめ等の未然防止や早期発見につなげて参ります。